

ハリケーン・カトリーナ後、Joomla ボランティアが デジタル救援センターを構築した経緯

<https://magazine.joomla.org/all-issues/august-2025/how-joomla-volunteers-built-a-digital-relief-center-after-hurricane-katrina>



2025 年 8 月 17 日

2005 年 8 月、ハリケーン・カトリーナの混乱の中、洪水が押し寄せ通信が途絶える中、オンラインではこれまでとは異なる形の救援活動が始まりました。緊急対応要員ではなく、世界中のプログラマー、デザイナー、そしてオープンソース推進者たちによって。

当時は Facebook や Twitter、さらには中央集権的な危機管理プラットフォームさえ存在しなかったため、これらのボランティアたちは集結し、当時リリースされたばかりの Joomla! コンテンツ管理システムを用いて、おそらく世界初の包括的なオンライン災害救援プラットフォームとなるものを構築しました。当初は「カトリーナ避難者ヘルプセンター」として始まり、数日後には [DisasterSearch.org](https://disastersearch.org) へと発展しました。

フォーラムに投稿された助けを求める声

このプロジェクトは、2005 年 9 月 1 日に [Joomla コミュニティフォーラム](#) に投稿された 1 件の嘆願から始まりました。www.churchofthe.net を運営していたミシシッピ州出身のジェイ・ディアマン牧師は、ハリケーン・カトリーナの被災者が愛する人々との再会を願う、ウェブ上に散らばる切実なメッセージを目にしました。彼の投稿にはこう書かれていました。

「インターネット上の様々な場所に、助けを求める切実なメッセージを投稿する人々がいます…一元化されたレジストリが必要です。しかも、早急に。」

Joomla コミュニティはこの呼びかけに応えました。数時間後、スイスのピーター・コッホ氏

(facileforms.biz) が率いる国際的な開発者・設計者コンソーシアムが結成され、この呼びかけに応えました。数日前にリリースされたばかりの **Joomla 1.0** を使い、彼らは 24 時間体制で作業に取り組みました。

わずか 5 日後の 9 月 6 日 には、サイトが公開されました。

情熱と Joomla で 5 日間で構築

開発開始からわずか 24 時間 で、正式公開前にもかかわらず、未完成のサイトには 500 人以上 がアクセスし、既に 12 家族 が再会を果たしました。

チームは 1 日最大 20 時間、無給で働き、中には本業を休んで私用で訪れた人もいました。 コッホ氏は次のように説明します。

「私たちは 24 時間体制で働いていました…ウェブサイトが完成する前から、私たちの活動のおかげで家族が再会していました。」

デジタル救援ハブ — 時代を何年も先取り

初期のハリケーン・カトリナ関連のウェブサイトの多くは、単純なリストや掲示板でしたが、**DisasterSearch.org** は包括的な**デジタル救援センター**でした。 DisasterSearch.org の特徴は次のとおりです。

- ・ **一元化された行方不明者データベース**：MSNBC、CNN などの名簿を 1 つの検索可能な情報源に統合。
- ・ **個人医療記録システム**： トリアージ医師が緊急患者の情報を保管・アクセスするための安全なポータル。
- ・ **避難所ディレクトリ**： 避難者が避難所を見つけられるようにし、避難所側も空きスペースを掲載して支援を要請できるようにしました。
- ・ **ボランティアマッチング**： 特定のスキルを持つ人と緊急のニーズをマッチングしました。
- ・ **ダウンロード可能な支援申込書**： 政府の支援書類に迅速にアクセスできるようにしました。
- ・ **コミュニケーションフォーラム**： 家族同士が最新情報を交換し、連絡を取り合うことができました。
- ・ **遺体安置所リスト**： 悲慘なケースで、家族が亡くなった愛する人の所在を確認できるようにしました。
- ・ **Web とモバイルの統合**： WAP アクセスと RSS フィードを提供しました。これは 2005 年当時としては最先端でした。

高まるニーズ：カトリナからリタへ、そしてその先へ

2005 年大西洋岸シーズン、カトリナに続いてハリケーン・リタが襲来すると、多くの避難民が再び避難を余儀なくされました。 DisasterSearch は迅速に対応し、その使命を一つの災害にとどまらず拡大しました。 ニュージーランド出身の市議会議員兼ウェブデザイナー、リン・ポープ氏は次のように述べています。

「リタの件で、2005 年のハリケーンシーズンは私たちを放っておかないことが明らかになりました。」

サイトは正式に「カトリーナ避難者ヘルプセンター」から「**DisasterSearch.org**」に改名され、より広範な利用に向けた準備が始まりました。

わずか 2 ヶ月です：

- ・ 75 万人以上が安否不明者として登録されました。
- ・ 約 49 万 7 千人が依然として行方不明者として登録されていました。
- ・ サイトには 1 日平均 9 万 5 千件のアクセスがあり、スペイン語での利用も急速に増加しました。

フロリダ州のエゼキエル・アマヤ氏は、ボランティアのスペイン語翻訳チームを率いて、すべてのコンテンツが英語とスペイン語の両方でアクセスできるようにしました。これは、この種のサイトでは他に類を見ないものです。

デラウェア州のジョン・ロング氏は次のように述べています。

「現在も登録されている 49 万 6000 人以上の人々の中には、無事でありながら、他の人々が自分たちのことを切実に心配していることを知らない人がたくさんいるでしょう。」

目的とともに成長したプラットフォーム

このサイトはカトリーナ避難者ヘルプセンターとして始まりましたが、すぐに DisasterSearch.org へと進化し、将来のあらゆる災害に対応するというより広範な使命を掲げました。名前は変わっても、核となる考え方は変わりませんでした。「**人が人を助ける**」という理念です。

これは、Facebook Crisis Response のような、ユーザーが安全にチェックインしたり、支援を申し出たり、寄付したりできる今日のデジタル救援プラットフォームの先駆けでもありました。2005 年当時はこれらの機能はまだ存在していませんでした。そのため、Joomla コミュニティは独自のソリューションをゼロから構築しました。

カトリーナの広範な遺産：世界規模の災害リスク改革

数年後、国連はカトリーナが世界の災害対策に与えた影響を認めました。国連防災機関（UNDRP）のマルガレータ・ワールストローム事務局長は次のように述べています。

「カトリーナの真の遺産は、世界中で災害リスク管理を促したことです。」

国連は、カトリーナの教訓の多くを Sendai 防災フレームワーク（2015～2030 年）に取り入れました。その中には、以下のものが含まれます。

- ・ カトリナの死者のほぼ半数を占めた**高齢者や障害者**といった脆弱な立場にある人々への更なる重点化。
- ・ コミュニティ主導の解決策とリアルタイムの情報共有。
- ・ より強固でレジリエンスの高いインフラとガバナンスによる、より良い復興。

結論：フォーラム投稿から人生を変えるプラットフォームへ

小さな町の牧師によるフォーラム投稿から始まったものが、オープンソースと思いやりによって支えられた世界的な人道支援技術プロジェクトへと発展しました。

わずか 5 日間で、Joomla コミュニティは実用的な災害対策プラットフォームを構築しました。

- ・ 家族の再会
- ・ 医師が緊急ツールにアクセスできるようにする
- ・ 避難所とボランティアをつなぐ
- ・ 将来のデジタル危機管理プラットフォームの礎となる

そして、これらすべてを Facebook や Twitter が主流になる前に実現しました。

これは、困難な時にオープンソースコミュニティが何を達成できるかを示す、**最も力強い事例**の一つです。

元のフォーラムリクエスト（2005 年 9 月 1 日）：

<https://forum.joomla.org/viewtopic.php?t=3045>

アーカイブサイト（DisasterSearch.org）：

<https://web.archive.org/web/20071014064040/http://disastersearch.org/>

Joomla コミュニティマガジンに掲載されている記事の中には、特定のトピックに関する著者の個人的な意見や経験を反映したものであり、Joomla プロジェクトの公式見解と一致しない場合があります。

著者について

ブライアン・ティーマン（Brian Teeman）

Joomla! と OpenSourceMatters Inc の共同創設者として、私は意見がないとか、それを表現することを恐れていると思われたことは一度もありません。

一部の人々がそう思っているかもしれませんが、私は内気で控えめな人間で、自慢したり実績を自慢したりすることは好きではありません。

Joomla に貢献するのにバッジを磨く必要はありません。ただ、袖をまくって、やる気を出せばいいのです。

以上